

## 12月の学習会の案内

平成26年12月5日

本年も早いもので、年末月を迎えました。先生方には、学期末進行に入り、お忙しくされていることと存じます。本年も先生方には、月々の例会等で大変お世話になりました。ありがとうございます。引き続き新年もよろしく願いできればと思います。

さて、12月の語る会ですが、いつもと違って午後からの会+忘年会というセットプランで考えています。語る会でこうした席を設けるのは、例年ですと夏なのですが、「たまには忘年会もいいよね」という声は前々からあがっており、今回実現にいたった次第です。ぜひ、大勢の先生方にお集まりいただき、今後の国語教育を初めとして様々な話題に花を咲かせ、1年間を互いに慰労する会ができればと考えております。お申し込みの先生は、附属小学校の小出か難波までメール、電話等でご連絡ください。よろしく申し上げます。

日時	平成26年12月20日(土) 14:00~16:30
場所	岡山大学教師教育開発センター 東山ランチ2F 授業研究室 ※いつもと時間がちがいます。お間違いのないようにお願いします。 TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455
連絡先	小出 真規(こいで まさき) TEL 090-5704-7339 m-koide@okayama-u.ac.jp(学校パソコン) m-koi.freewill.ns.io@docomo.ne.jp(携帯メール)
内容	小野桂先生(附属小学校)の実践発表(どうぶつの赤ちゃん)

<お知らせ>

※ 駐車場について

東山ランチの駐車場をお使いください。

### 【忘年会の部】

日時	平成26年12月20日(土) 18:00~(2時間程度)
場所	花咲酒蔵 ウメ子の家 岡山本町店 岡山市北区本町3-23 大関ビル2F 050-5845-6607

忘年会の部申し込み希望の方は、附属小学校 小出か難波までご連絡ください。12月12日(金)までお願いします。

## 10月の語る会（11月は休会）

### 10月の学習会の報告

報告が大変遅くなってすみません。10月の語る会は、「鳥獣戯画を読む」（6年生教材）の教材研究の続きを行いました。

#### 田中先生より

○年棒制の給与へ移行させていこう話が政治の議題として挙がってきている。子育て世代に手厚くしたいという意図があるようだが、果たしてそれでいいのか。大学でも、年棒制に移行していくようだ。1年間の給与は当面は上がるが、退職金はない。そのまま勤めていったらもらえるであろう退職金の額を年数で割ったものが1年間の給与に上乘せられるという形になる。そうすると、長く勤める必要がなくなるので、人がどんどん変わっていき大変。教育学部などでは、人材養成や地域との関わりを大切にしているのに、次々と人が変わってしまうと、教育分野の崩壊を促進してしまう恐れがある。

○授業においては、ここのところ「単元を貫く言語活動」の考え方についてよく言われている。三次や四次の活動に使われる力を二次で身につけて、学習者自身もそれを意識できるようにする、というこの考え方自体は大切なこと。しかし、この形だけが先行してしまい、最後に表現系の活動をもってきて、その前に表現に関係している活動をもってきたら達成できているというような流れになっていることが残念。作品を読み味わったり、分析して解釈したりすることが抜きになってしまっている現状がある。新しい提案があったとき、すぐに鵜呑みにするのではなく、根本をしっかりと考えて慎重な取り組みをしていくことが大切。

#### 小川先生より

○教員採用試験の勉強しかしていない学生が教師になることを危惧している。

○説明文では、「話題をつかむと説明がよくわかる」、物語では、「文章の冒頭が大事」などを知った上で、文章は書き手がものすごく工夫しているということに気付くことが大切。教材研究をするおもしろさを追究していくことを積み重ねていく必要がある。

○今日は、丸ごと読みの読み方で「鳥獣戯画」の教材研究をしていきたい。丸ごと読みの良さを考えながら授業構造を考えていきたい。丸ごと読みには、必然性がある。例えば、「海の命」では、子どもたちは初読の段階で、太一が変化していることに直観で気付く。そこから、「太一が変化していることを確かめよう」という思考になる。直観したことを、表現や仕掛けにかえりながら二次で検証していく形になる。おもしろ見つけにも、前の場面と比べて変化していることに気付く「変化反応」があるが、丸ごと読みで気付く作品全体と関係したダイナミックな変化に比べて弱い反応である。変化を読むということばの力を本当に身に付けさせるためには、おもしろ見つけよりも丸ごと読みの読み方が身に付くのではないだろうか。二次の1時では、全文を読んで、途中から「葛藤」から「穏やかになる」などの変化。2時では、変化が起きるためのきっかけを読んでいく。因果の論理関係を読むことができる。3時では、クライマックスを読む。このような読み方は、おもしろ見つけでは弱い。丸ごと読みの読み方が必要。このような読み方を身に付けることで、物語を味わう力が身に付いていく。今日は、教材研究の中で、丸ごと読みの必然性も考えていきたい。

「白いぼうし」では、「松井さんってやさしいな」「ふしぎな話だな」など、情意面の反応を軸にしながら、それに関わる描写表現を見つけていく。この物語では、変化というよりもやさしさが連続しているのだから、場面ごとのやさしさを比べていくという読み方ができる。おもしろ見つけで読んでいくのか、丸ごと読みで読んでいくのか、それぞれ身に付けさせたい力がちがってくる。そこを照らして考えていけるといい。

○「鳥獣戯画」を丸ごと読みで読むとすると、どうなるか。この文章は、構成が難しい。1, 2段落は、リードになっている。3, 5, 6段落は漫画の祖。4, 7段落はアニメの祖。8段落からは、少し高いレベルでまとめられている。この作品には、高畑さんらしい鳥獣戯画の読み方が描かれている。「高畑さんらしい読み方

を見つけていこう」という単元を通したためあてもできるのではないか。

### 田中先生より

○おもしろ見つけと丸ごと読みをセットで考えていくことが大切。まずは丸ごと読みが大切。丸ごと読みでは、具体的な観点で押さえられないことがあるので、反応する力を育てるために、バランスを考えながらおもしろ見つけを取り入れることも有効。丸ごと読みは、教材研究がどこまでできているかが勝負。浅い教材研究では通用しない。そこで、現場ではおもしろ見つけに偏ってしまっている現状がある。しかし、最後に行き着きたいのは丸ごと読み。日常に必要な読みの能力を育てることにつながっていく丸ごと読みを大切にしたい。セットで考えていくようにしたい。

○鳥獣戯画では、5段落は吹き出しについて、6段落は動きについて、7段落は時間の経過について取り上げられている。これらは、アニメの要素になっている。アニメを追究してきた高畑さんにとってみると、その要素をもっている鳥獣戯画は「人類の宝」とも言えるものだということ。アニメの祖、というとらえ方は、高畑さんの見方。筆者の視点を導入して読むことで、読み取り方が変わってくる。説明的文章では、筆者の視点を取り入れることを意識的に行っていきたい。小学校の段階では難しいかもしれないが、その道筋を考えて指導していくことも大切。

### 小川先生より

○まず、「高畑さんらしい鳥獣戯画の読み方を見つけよう」というめあてで丸ごと読みの1時ができる。整理すると、漫画の祖に関する感想、アニメの祖に関する感想などが出てくる。それをつなげていくと高畑さんらしい読み方が見つけられる。二次の3・4時では、それをくわしく読んでいけばよいのではないか。

### (質問)

○この説明文の文種は何か。批評文ととらえてよいか。「鳥獣戯画の高畑さんのとらえ方が妥当かどうか」という読み方は、子どもにとっては難しいのか。

### 小川先生より

○批評する読み方は、三次につながっていくのかもしれない。批評する読み方は、子どもからは出てきにくいので、こちらから提示するとよいのかもしれない。近年、書き手が前面に出た説明文が増えてきているので、批判的な読み方は意識して経験させる必要がある。

### 田中先生より

○中学校では、批判的な読み方を学習する。小学校高学年からも、意識させたい。

### (質問)

○説明文を丸ごと読みで読んでいく意義を知りたい。

### 小川先生より

○段落相互を比べることができるという良さがある。高畑さんのとらえた鳥獣戯画の魅力を全体でカテゴライズしながら比べていくことができる。

### 田中先生より

○文学の場合は、直観自体が読みとなる。説明的文章の場合は、論理の直観が必要。全体を読まないにとらえられない。

## (グループごとの教材分析)

### ●1グループ

・この教材にどんな魅力があるかを考えた。日本人の祖先のすばらしさが伝わってくる。高畑さんの思いが文末表現からも伝わってくる。

・層で読むといい。「漫画の祖」「アニメの祖」「人類の宝」という層で読める。2, 3段落では漫画の祖, 4段落ではアニメの祖, 5, 6, 7段落ではどちらとも言える表現になっている。8, 9段落では人類の宝であ

ることが分かる。段落ごとにそのすばらしさを読み取っていきたい。

### ●2グループ

・「絵を見てすごいと思うところを確かめよう」というめあてで、まず鳥獣戯画と出合わせる。なぜすごいのかを確かめていく。そして、この説明文と出合わせる。高畑さんが「漫画の祖」と感じているところを確かめよう、「アニメの祖」と感じているところを確かめよう、「人類の宝」と感じているところを確かめよう、というめあてで読んでいくと良いのではないか。三次では、他の作品を持ってきて、「批判できるか」という視点で読むというのもおもしろい。

### ●3グループ

・鳥獣戯画のおもしろさを、高畑さんの書きぶりで書いている作品。どこに焦点化させて読むかを考えたい。「高畑さんらしい読み方を見つけよう」という読みで丸ごと読みをさせた場合、教師がどのようにまとめていくかをよく考えないといけないと思う。子どもの実態に応じて、段落を入れ替えたりしながら読ませることで、段落相互の関係も考えられるので、論理的な思考も働かせられるのではないか。

### ●4グループ

・全体で読んだ時に、漫画の祖とアニメの祖を比べて読むことができると考えた。漫画の祖は、みんなも知っているすばらしさである。アニメの祖については、高畑さんらしいアニメーションの見方をしている、それこそが読者に伝えたいことではないか。

・8段落からは、「人類の宝」という少し飛躍した説明になっている。それについては、「納得できるか」という視点で読むこともできるのではないか。

・絵とつなげて読むことのできる良い作品。絵とつなぎながら読むことを大切にしたい。

・書きぶりから高畑さんを読むことができる。

### ●5グループ

・まず、高畑さんがどういう人かを紹介するとよい。

・「高畑さんが見つけた魅力を確認しよう」という読みは難しい。自分が、鳥獣戯画についてどう思ったかを確認する読み方をまずするが良いのではないか。

・「本当に人類の宝なのか」という視点をもち、「人類の宝ということを確認しよう」というめあてでも読んでいけるのではないか。

・漫画の祖、アニメの祖については、入り交じって書かれているので、どのように分けていくかが難しい。

・最終的には、この文種は何に入るのか。筆者のものの見方をどう批評していくか、という力がやはり大切だと思う。

## 赤木先生

・「鳥獣戯画のよさ」と「高畑さんの見方」の2方向から読める。子どもの意欲や反応を大切にしていきたい。

・中学校では、「筆者はどのようにとらえているか」を入りに考えさせている。論理の直観をさせるなら、はじめに「高畑さんはどんな魅力を見つけていますか」という問いを投げかけると良い。そうすることで、丸ごと読みの1つの視点をつくることができる。子どもが語ってきた「魅力」を、漫画、アニメ、人類の宝に整理して位置付けることで、作品全体を見ることが出来る。

・「今度は君たちが考える番だ」という読者に委ねられた読みも大切にしたい。『人類の宝』と高畑さんは言っているが、あなたはどう思う?という投げかけをして、考えさせることが、小学生なりの批判的な読み方につながるのではないか。

## 田中先生

・純粋に「漫画」という言葉の定義づけにさかのぼると、時間軸をとらえていない1コマ漫画になるのではないか。ここでは、時間軸のある漫画として取り上げている。筆者の視点でこの文章を読んでいくと、筆者はアニメのことを伝えたい!という思いがあることが読み取れる。「12世紀からこの技法がとぎれることなく...」

という表現にもあるように、この技術が引き継がれ、アニメにも派生していったという読み方もできる。

・論理の直観という点では、まずは問いと答えを読むことが大切。「筆者が～についてどのように展開して～を伝えようとしている」というように文章を読み解いていくことが、論理の直観を働かせて読んでいると言える。説明文には大きく分けて、説明主張と見解主張のタイプの2つがある。この文章は、高畑さんの鳥獣戯画を読むという文章は、読者に「鳥獣戯画のすばらしさ」を紹介し、「この技術を途切れることなく続いているということに日本文化の大きな特徴」を見出し、「大切に保存され伝えられてきたことに人類の宝という評価」をしているという風にまとめることができる。それに対して、「読者であるあなたはどう感じますか」ということをセットにして読まなければいけない。見解に関わる表現に着目して読んでいくことが大切。